

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社 サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里		
所在地	千歳市住吉4丁目8番14号		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0171100266-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても普通の暮らしが出来る」ということを常に考え個人を尊厳しプライベートのある生活が出来るよう支援しています。地域に根差したグループホームになるよう目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年を迎えたホームは閑静な住宅街の中で千歳駅から交通の便も良く、地域との関係性も作りやすい位置にあります。3階建ての1・2階がホームで、3階は高齢者住宅になっており日頃から利用者同士の交流があります。職員はホームでの生活は在宅生活の延長と捉え積極的に地域事業に参加しています。町内の盆踊りには車いすの方も輪の中に入り、焼き鳥やビールを口にして地域の一員として楽しみを感じているようです。ホーム行事としてカラオケや社交ダンスで若い頃を回想しながら楽しむ利用者の姿は職員にとっても嬉しい一時のようです。敬老会にはホテルで家族を交えての食事を企画し職員の余興や、利用者も一緒に踊るフラダンスでは家族も温かい気持ちになったようです。何時も温もりある企画で利用者の豊かな笑顔に触れる事が家族にとっても喜びです。職員の熱意に利用者、家族から感謝の言葉も多数寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し日常の業務の中で取り組みよう努めている	地域密着型の役割を意識し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい理念が作られています。職員はミーティングなどで確認しながら、理念に沿ったケアの実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事への参加や日常の散歩等で挨拶や会話をして交流を深めている	町内会とは運営推進会議や回覧板で行事を周知し、相互の交流を図っています。散歩時には挨拶や会話から庭の花等を頂く事もあります。町内会の盆踊りには車椅子利用者も輪の中に入り焼き鳥やビールを頂いて夏祭りを楽しまれるなど、地域内交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やキャラバンメイトの活動と通じて行なっている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議の中で活動報告を行い意見や要望を取り入れサービスの向上に努めている	運営推進会議は定期的開催されています。ホームの活動報告や認知症の予防、地域と相互の行事報告、千歳市の防災についての説明などを行っています。出席者からの意見交換により理解に努めていますが、利用者や家族の出席はありません。	利用者や家族がホーム以外の外部の人に意見・要望を表言する機会や場がある事を伝え、運営推進会議に出席し易い雰囲気作りを期待します。また、訪問時やお便りで家族の意見の必要性を発信されることも期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から必要に応じ連絡を取り情報交換や協力関係を築く様に取り組んでいる	行政とは日常的にホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、連携を深めています。市職員の担当者が交替されたときにはホームの見学に来ています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の際に身体拘束について同意を頂き職員は会議の中や研修等で意識を持ちケアに取り組んでいる	職員は身体拘束防止の研修等を通して拘束の弊害を理解し、「拘束は絶対しない」との思いを重要事項にも掲げ、禁止の対象となる具体的な行為も記載して周知しています。各ユニットの玄関入口は施錠されていますが利用者の外出を察知した場合には外出を支援しています。	運営者や家族は玄関の施錠を望んでいますが抑圧感のない自由な生活を支えるため、リスクを伴う事を話し合い、理解してもらう事が求められます。リスクを回避するための見守り強化や工夫を職員間で協議し、今後の解錠対策に期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的にも利用者様を傷つけないよう意識を持って行動し定例会議の中でも変色等の報告、原因追求を話し合い改善に努めています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ、必要な方には情報提供やそれらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専任の担当者が十分に説明を行い納得いただいた上で契約等を交わしている また、入居後も疑問等あれば随時対応出来るような体制を整えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中から御本人様の要望を取り入れ面会時には御家族様の意見や要望をお聞きし業務に反映させている	家族には担当職員から毎月利用者の暮らしぶりや状況を「お便り」で伝えています。また、家族が行事等に参加されたりホーム来訪時には意見や要望を気軽に言ってもらえる関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定例会議に参加し代表者は必要に応じ話し合いの機会を設け検討し反映させている	ユニット毎に職員会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けています。管理者は職員からの日常の意見や提案、アイデアに気づいた時にはその場で確認し、必要に応じて運営者に報告し反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、各部署の長の報告を受け、必要に応じて職務内容の検討、職場環境や条件等の見直しを行なっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会や勉強会へ積極的に参加するよう指導しスキルアップに繋がるよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他の事業所の職員と情報交換や交流を持っている。また、絆の会（地域密着型事業で作っている会）に参加しサービスの質の向上について検討し互いに取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から入居に関する不安や入居後の不安を聞き取り対応を説明、入居後は安心を確保できる様に困っている事等の要望をお聞きし解消できるような相談し関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点から困りごとをお聞きし不安や要望に対応できるよう相談を重ねながら意に沿う事が出来るよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族との話し合いを重ね入居時にケアプランを作成し何が必要なのかを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立って物事を考え日々の生活の中で安心して生活出来るよう、また自宅で生活しているような関係づくりに努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様の想いや希望をふまえ、御家族の想いも受け止めて擦り合わせをしながら一緒に御本人様を支える事が出来るよう信頼関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出、外泊は自由に出来るようにしているが御本人の思いを100%叶える事は困難な事もある	毎年夏になると家族と共に墓参りを続けている利用者の同行支援をしています。正月には初詣の同行支援も行い、病院の受診帰りには利用者の自宅近辺を通るようにして、馴染みの場所等との関係が途切れないよう支援しています。また、友人の訪問にはゆっくり寛いで頂けるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様も個々の性格がある為意見や嗜好が合わない事もありますが職員は人間関係を把握し孤立しないよう間に入り会話などのきっかけ作りや環境の提供に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて医療機関や他事業所と連携を取り情報交換を行い御本人や御家族の支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のなかで思いや希望を把握しミニカンファレンスや会議の中で検討しています。困難な場合にはご家族にも相談し検討、協力をして頂く事もあります	利用者の思いは日常の関わりの中から言葉や表情、仕草で理解に努めています。元気がないような様子の時には職員間で話し合い、真意を推し測るなどして、本人本位の暮らしを支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用や日常、御本人様や御家族様からの情報を職員で共有し把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の生活リズムを考えながら記録や申し送り等で情報の共有をし、現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中で評価を行いアセスメントを基に計画作成を行っている。御家族にも都度、説明を行い意見等頂いている	利用者や家族の意見や要望等を前提として、職員間で意見やアイデアを出し合い介護計画に活かしています。介護記録にはケアプランの実施状況を確認し、定期的なモニタリングをもとに話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な部分も記録し全員で確認する事で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な要望や希望に対しても可能な限り柔軟に対応できるよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々人の能力や必要に応じて支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診と訪問看護にて情報共有と情報提供を相互に行い御家族や御本人の希望の受診がある際には都度対応している	かかりつけ医には職員が受診の同行支援をしていますが、週3回の通院などには家族の協力を仰いでいます。受診後は受診記録に基づいて家族と連携し職員間で情報の共有を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により情報を訪問看護師に提供し必要に応じて相談、助言を受け適切な受診が受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との医療連携により相談員もホームへ来る機会が増え御利用者様の情報共有がより行なえるようになった。入退院に関しての相談も常に行う事が出来ている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は研修等で知識を得た事を基に会議で話し合っています。また、御本人の状況に応じて今後の方針について医療機関と家族を交えて相談し方向性を確認しながら支援している	利用開始時には指針を基に、重度化などの問題が生じた場合の説明をしています。重度化時には本人、家族、医師、職員を含め話し合い方向性を確認しています。現時点では在宅に理解のある医療機関が確認できないため、看取りに取り組めない状況です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員を中心に実習の計画を立てている。また、マニュアルを置き日々対応できるよう周知している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行ない地域住民の参加も得られている。また、チェックシートを活用し火災の危険箇所点検も実施している。千歳市の災害防災訓練にも参加している	避難訓練は消防署や地域の協力を得て、夜間を想定した訓練を実施しています。地域の避難経路も町内会役員と確認しており、災害時の備蓄品も整えられています。また、防災のための設備の点検も定期的実施されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し言葉掛けを行なっている。不適切な言葉掛けになっているような事を気付いた際には職員間で互いに注意しあい意識付けをしている	理念の中にも個々の「尊厳を保障する」と謳い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけています。また、職員間で不適切な言葉掛けに気付いた場合にはその場で注意し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく表情や動作からも自己決定できるよう選択肢をいくつか提供する等工夫をしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様のペースを大切に一緒に楽しみながら生活出来るよう支援しています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容では希望のパーマや毛染めを楽しんで頂き、毎日の服装などもその人らしさが出るよう色や好みの物を選べるよう支援しています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様とコミュニケーションを取りながら希望をお聞きし一緒に準備、調理、片付けを行い食事を楽しめるような支援を行っています	その日のメニューは利用者と相談しながら決めていきます。食事一連の作業を職員と一緒にを行い、ホットケーキやたこ焼きなども作り、張り合いや自信に繋がっています。夏には菜園で収穫した野菜も食卓に上がり話題になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに注意しながら個々の食事摂取量、水分摂取量を把握し調整している 必要に応じて協力医療機関の管理栄養士による個別の栄養指導も受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様の自立度に応じて声掛けや支援を行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄版の活用と御本人の仕草や行動を理解しトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている	利用者の個々の記録から排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援をしています。夜間はトレーニングパンツを使用しているも日中はパット類の使い分けで、失敗を減らす声掛けや誘導によりトイレでの排泄を大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し個々に合った下剤の調整を医療機関と相談し行っている 水分摂取量の確保と食事内容の工夫も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴して頂けるよう支援し個々の時間に合わせて出来るだけ希望に沿った入浴の提供を行っている	入浴は利用者の希望に応じて少なくとも週2回の支援をしています。仲の良い利用者同士で入浴したり職員と入浴することもあります。寛いでゆったり入ってもらい、入浴後は時には好みの飲み物を提供するなど、楽しみに繋げる事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に、その時々状況に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬については薬剤師の説明を定期的を受け、副作用等の確認と理解をしている 症状の変化を早期に発見できるよう観察するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様と一緒に出来る事を多く見つけ楽しみながら支援するよう努めていますが料理に片寄ってしまうがちになっている為もっと出来る事を検討し支援していきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から外出行事を行い希望があれば個別に外出する機会を設け可能な限りニーズに応えられるようにしている	紅葉見物やドライブ、鮭ふるさと館などへの外出支援をしています。ビール工場見学では最後のビールでの乾杯は嬉しそうでした。カラオケボックスでは歌好きの利用者やや唄や雰囲気に合わせて職員と社交ダンスを踊る利用者など、若い頃を回想する様子が見受けられました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはグループホームで管理している。自己管理が可能と思われる方には力量に応じた額を自己管理して頂いている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に都度対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような装飾や居心地の良い生活空間の提供が出来るよう家具などの配置を工夫している	居間にはクリスマスの飾り付けやツリーが置かれ季節感が感じられます。大きなソファが色々な方向に配置され、横になる方、座って寛ぐ方などゆったり安心して過ごされています。浴室や脱衣所は広過ぎず狭過ぎず複数の入浴者でも十分寛げます。脱衣場は籐製の長椅子が配置され腰掛で一息つけるのも嬉しいです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを多く置き思い思いに過ごしたり会話しやすい環境作りに努めている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を配置し御本人が居心地良く過ごす事が出来るよう工夫し安全にも配慮した環境整備が出来るよう努めている	居室は利用者の馴染みの家具やベッドなど、使い勝手が良いように配置されています。家族の写真を身近に置きながら、編み物が得意な方は靴下や手袋を編んで過ごし、お手玉作りの得意な方は地域の子供達へのプレゼントを励みに過ごしています。それぞれの利用者が安心して過ごせるように職員や家族が支援している様子が伺えます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人の意思で自由に行動が出来るように安全に配慮した環境作りに努めている			